

医療安全トピックス TOPICS

Vol.180

増田 智子

一般社団法人日本医療安全調査機構
医療事故調査・支援事業部

医療事故の再発防止に向けた警鐘レポート No.3 「異所性妊娠に伴う卵管破裂による死亡」について

日本医療安全調査機構（医療事故調査・支援センター）では、医療事故の再発防止に向けて、さまざまな活動を展開しています。今号では、2025年7月に公表した医療事故の再発防止に向けた警鐘レポート No.3「異所性妊娠に伴う卵管破裂による死亡」について紹介します。

医療事故調査・支援センターには、これまで異所性妊娠に伴う卵管破裂による死亡が3件（体外受精2

件、自然妊娠1件）報告されました。異所性妊娠は、臨床現場では「子宮外妊娠」という名称で使用されることが多いですが、2009年より日本産科婦人科学会において「異所性妊娠」と名称が統一されました。異所性妊娠は全妊娠の約1%に発症し、生殖補助医療においては発症の頻度が高まるとされています。2022年より生殖補助医療の保険適用が開始となり、異所性妊娠の増加も懸念されることから、本稿では、その注意喚起のために医療事故の再発防止に向けた警鐘レポート No.3「異所性妊娠に伴う卵管破裂による死亡」(図表1)について紹介します。

●異所性妊娠(子宮外妊娠)は 妊娠可能なすべての女性に起こる

妊娠とは子宮の内膜に受精卵が着床することですが、卵管部位など子宮内膜以外に着床することを異所性妊娠(子宮外妊娠)といいます。異所性妊娠の状態で受精卵が成長すると破裂に伴う出血により、致命的な状態に陥る場合があります。

体外受精による妊娠、卵管手術、腹部や骨盤内手術の既往など、異所性妊娠のリスクを上昇させる要

【図表1】警鐘レポート No.3

